

サンデー コラム



中村正・秋田屋本店社長

プロポリスとの出会い 六つの蜂蜜は、蜂蜜は30年前の1985年で ロイヤルゼリー、蜜蝋、洋で初となる第30回国際 蜂ヤニと云われ、人々の養蜂会議(通称アピモンディア)が名古屋で開催されました。地元企業として、健康や生活に深く関わっています。その中で蜂ヤニは薬器や金属のつや出しに使われるものということもあり、実行委員に参画し、大会の運営と併せて展示や学術発表、商品のコンテストへ出品等、事前の準備期間から大会までのロングランに亘りイベント漬けの生活を過ごすこととなりました。

目指せノーベル賞



なかむら・ただし 1951年、岐阜市生まれ。博合会長。岐阜南法人会長。士(医学)。藤田保健衛生大学大学院医学研究科研究員。県製薬協会会長。県研究開発財団評議員。みつばち

の理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜南法人会長。県経済同友会代表幹事。岐阜放送番組審議会委員、県フェンシング協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。

であることが発表されました。小生は、41年前の1974年に当時、東京・目黒にあった森永乳業中央研究所にて蜂蜜の品質検査の研修以来、商品の品質保証の重要性を痛感し、分析検査に力を入れてきました。その結果としてアピモンディア名古屋大会では、「医薬品ローヤルゼリーの品質規格について」という演題で発表

表をしました。ロイヤルゼリーについては、局方に収載され、医薬品としての期待しており、プロポリスははじめ蜂蜜製品の価値を十分に持つ素

は昭和38年に医薬品として承認を受け、研究、開発、マーケティングを推進した。しかし、蜂蜜、蜜蝋は日本薬理学会賞を目指して、プロポリスについては、局方に収載され、医薬品としての期待しており、プロポリスははじめ蜂蜜製品の価値を十分に持つ素

が無く、アピモンディア名古屋大会で、欧州諸国の中でも免疫力を高め外敵から体を守る機能を持つ物質であると確信しました。30年前に欧州から紹介されたプロポリスを、さら

に健康に役立つ商品と化作用に注目し、大学と共同研究を進め、小生自身、医学部大

研究進むプロポリス

身、医学部大 たら何と素晴らしいこと 学院医学研究 でしょう！ 微力ながら 科に10年在籍 そのための一助となるよ